

留学生の誤用を見る

Common on Errors of Students Overseas

桃井 恵一

要旨

本論では、留学生の作文（実例）を元に誤用表現をピックアップする。そして、その原因、理由を探り、今後の留学生への日本語教育への方策を考えてみる。留学生の誤用を見てみると、よく似通った間違いを目にすることがある。その原因にはある種母語の影響で化石化が起こっていることが考えられる。むろんすべてが母語の影響に起因するわけではないが、今回はその誤用を元に、原因をさぐる試みをする。なおここでの留学生とは、大多数が中国からの留学生であるが、少数ながら韓国からの学生もおおり、サンプルとして採用していることを書き添えておく。

キーワード: 誤用、化石化

Keywords: error, fossilization

1. はじめに

誤用分析は以前から行われている手法であり、その研究成果はこれまでに多数ある。日本語と中国語の誤用研究に限ってみても、日本国内はもちろん、中国での発表もかなりある。留学生への日本語教育においては、誤用研究は有効な手立てだといえる。その中には、例えば、穂積（1987）、中徐宝妹・许慈惠（1995）や王忻（2006）などがある。

第二言語を習得する際の学習者の言語知識は固定的なものではなく、修正され続け、その結果正しいものへと近づいていくと考えられている。しかしながら、場合によっては不正確な音、語彙、文法などが誤って定着し、その後正しい形へと変化しない現象が起こる。このことを「化石化」現象という。留学生がまず母国で日本語を学習し、その後日本へと留学を果たす。彼らは母国や日本で日本語

に接しながら常に正しい言葉を身につける状況にあるのだが、時として誤ったインプットがなされ、母語干渉による類推などを経て、修正がされないことがある。本稿ではこれら化石化の原因を考え、今後の日本語教育に役立てることを目指す。

2. 分類について

先に述べたように、誤用分析については、これまでに多数の研究成果がある。ここでは、先に取り上げたように、穂積（1987）、徐宝妹・许慈惠（1995）と王忻（2006）の分類を参考にし、本稿での分類に役立てたいと思う。まず穂積（1987）は、全体に品詞別などに分類していて使い勝手がよいように組まれている。次に徐宝妹・许慈惠（1995）は、サンプル数が600文以上あり、誤用例文、訂正文、中国語による表記（中国語訳文）、誤用分析が盛り込まれている。ただし、例が列挙されているだけで分類分けがなされていないため、使いにくい点があるのは否めない。しかしながら、例文に中国語対応文を付していることにより、その日本語の文章の言わんとしていることが分かるのが大変参考になる。そして王忻（2006）だが、こちらは概説編と誤用分析編に大別している。そして、概説編では、誤用についての定義、先行研究、そして当該研究の意義、位置づけについて書かれ、誤用分析編では、(一) 語彙編、(二) 文法編と分けられていて、非常に使いやすい構成になっている。従って、本論の分類はこれを参考にすることにする。

なお、今回使用するデータは、留学生の中で、1回生、2回生を中心に延べ74人の実例を集めた。また、すべて作文というスタイルを取っているため、いわゆる「変換ミス（誤変換）」はないものと考えている。これは例えば、「はたらく」という部分を本来「働く」とするところを「動く」と書いた学生がいたが、ワープロの変換では恐らくきちんと打ち出せたものだと思う。留学生は、要旨で触れた通り、大多数が中国（北方・南方出身者とも）ではあるが、1名韓国からの留学生がいる。

作文のスタイルはテーマを決め、原稿用紙にかかせるものである。以下、選考研究の分類を見ながら、本稿の分類を考えることにする。

2.1 穂積晃子（1987）の分類

穂積（1987）では、以下のように分類されている。すなわち、‘寒暄交际（あいさつなどのコミュニケーション）’ ‘副詞与副詞性词语（副詞、及び副詞性語句）’ ‘若干常用词（若干の常用句）’ ‘指示代词（指示代詞）’ ‘形式名词（形式名詞）’ ‘助词（助詞）’ ‘ハ和ガ（「ハ」と「ガ」）’ ‘接续助词（接続助詞）’ ‘条件的表达方式（条件の表現方法）’ ‘可能的表达方式（可能の表現方法）’ ‘使役的表达方式（使役の表現方法）’ ‘意志的表达方式（意志の表現方法）’ ‘时（テンス）’ ‘体（アスペクト）’ ‘授受关系（授受関係）’ ‘敬谦语用法（敬語の用法）’ ‘文体（文体）’（かっこは筆者による）である。

2.2) 王忻 (2006) の分類

王忻 (2006) では、大別して「語彙編」と「文法編」に分けている。この中で「語彙編」では、単語、慣用句と分けている。単語については、中日同形異義語、間違えやすい名詞の誤用、間違えやすい動詞の誤用などがある。そして、「文法編」については、まず品詞別に名詞、動詞、形容詞、副詞、助詞、指示詞、接続に分類している。さらには、文型、敬讓語、モダリティ、文体に分類している。

2.3 本稿での分類について

本稿では、以上見てきた穂積 (1987)、王忻 (2006) の分析をふまえ、分かりやすさを考慮し、ここでは留学生の誤用表現を以下のように分類してみる。すなわち、イ形容詞 (形容詞)、ナ形容詞 (形容動詞)、仮定法、モダリティ (勧誘表現)、接続、発音、列挙、語彙に分類してみた。

3. データ

3.1 イ形容詞

イ形容詞を使った誤用例がいくつかあったが、まず願望を表す「ほしい」とそれに関連して「たい」について見てみる。

- (1) 私の理想は世界の各地へ旅行たいと思います。
- (2) 冬の時、雪がふわふわと降るを見ることがほしいです。
- (3) 例えば、学校でたくさん単位を取って欲しい!

(1)(2)の誤用例に関して、「ほしい」、「たい」の項目を、テキスト《中日交流標準日本語 初級 (上)》に探してみる。同テキストの第 14 課に出ている。そこでは、「ほしい」「たい」については以下のよう説明されている。

「ほしい」(甲は 乙が ほしいです)

“ほしい”是形容词，意思相当于汉语的“要”，“乙”的部分由名词构成，这种句型的主语一般为第一人称“わたし”。《中日交流標準日本語 初級 (上)》p.212

「たい」(甲は 乙が …たいです)

这个句型表示“想～”的意思。但这里“乙が”后面要跟动词。把“読みます／食べます”中的“ます”去掉，加“たいです”。主语一般是“わたし”。《中日交流標準日本語 初級 (上)》p.212

つまり「ほしい」と「たい」について、それぞれ接続する品詞の違い、つまり「ほしい」の前には名詞が、「たい」の前には動詞が来ることがきちんと説明されている。また、(3)の誤りについては、本来動作主 (主語) が「わたし」であるはずだが、「～に…てほしい」という文型を用いている。厳

密に言えば「～に」がないのであるが、「動詞テ形+ほしい」ということで、そのように解釈できる。これは自分以外の人などがある動作・行為をすることを望む際に使う文型であるので、誤用である。ちなみに(2)について言えば「降るを見る」ではなく、「降るのを見(たい)」とするべきである。

3.2 ナ形容詞

イ形容詞とナ形容詞（形容動詞）では名詞を修飾する際に違いが出てくる。

(4)美しい景色

(5)きれいな景色

(4)のようにイ形容詞の場合（美しい+景色）とそのまま修飾するのに対し、(5)の例のように、にナ形容詞の場合（きれいな+景色）と、名詞を修飾する際「な」を挟まなければならない。しかし、以下見るように学生の作例には間違いが散見される。

(6) 日本人の和服って、すごいきれい着物だと分かりました。

(7) まちもきれい感じがある。

(8) 日本に着いたところ時きれい環境に引きつけられました。

(9) 大阪はとても綺麗のまちです。

(10)今年日本語能力試験の1級を合格するのは大切なことである。

(6)に関しては、「すごいきれい」の「すごい」は本来連用形の「すごく」とするのが正式ではあるが、同様の变化をして、人口に膾炙されている「えらい」「おそろしい」同様副詞として解釈してもいいのではないかという指摘もある(注1)。さて、(6)～(8)の例では、いずれもナ形容詞「きれい」が修飾している名詞が、直接そのまま来ている点が共通している。ナ形容詞の中には「静かな」、「元気な」というように「な」で終わると分かりやすいが、「きれい」は「い」で終わるために、一般に言われる形容詞、つまりイ形容詞、と同形のため混乱が起きた可能性がある(注2)。(9)の例は、「名詞+の」としたことから、「綺麗(きれい)」を名詞と思いこんだ例と思われる。ナ形容詞については、「状名詞、ナ名詞、準名詞」と呼ばれることがあるように、名詞に近い性質も持ちうるため、紛らわしかったとも考えられる。この点は(10)についてもいえる。

3.3 仮定法

(11)もし4年後卒業した中国帰た何もできない。あの時はかわいそうであります。

(12)もしことしの4月奨学金を取得する一番いいです。

仮定を表す「もし～」は文末に決まった形式（「ば」「なら」「たら」）をとる呼応関係が要求される表現である。具体的には「もし～たら」という言葉が出てこないといけないが、それを忘れている。中国語の場合、“如果／如果～的话”のように“～的话”はオプションではあるが、日本語では必須だということを考えると、もしかしたらこれも母語干渉の一例といえるのかも知れない。

3.4 モダリティ（勧誘表現）

モダリティとは「類推や意志など話者の心的な態度や気持ちを表す文法形式」のことを指す。ここで取り上げる例文は「話者（筆者）の勧誘」を表すと考えられる。つまり「～ましょう」という形式に現れている。

(13)年頭にあたり貿易会社の目標へがんばりましょう。

(14)じゃ、がんばりましょう。

(13)(14)とも学生本人の、新年を迎えての新たな決意表明を書き記した文章である。勧誘を表す場合、主体が1人称、もしくは1人称と聞き手（2人称）を包含した形が適切だと言える。この2例は、本人の意志を明確に宣言したものであるので、「～ます」にしなければならない。

3.5 接続

ここで取り上げる接続は、主に時間関係（時間の前後関係）を表すものである。誤用例によくみられる「接続」には、理由関係を表す「て（で）、ので、から」などがある。しかしながらここではその例は(21)のみで、(15)～(20)にあるような、「～して、そして」という時間を表す意味合いが強い。

(15)日本へ来た、もう4月でした。

(16)私はもう日本に来た三ヶ月くらいになった。

(17)あの日は今思い起こす。とても楽しいです。

(18)日本に着いた4月かです。

(19)日本に来たもう半年ですでも日本語はずっと苦手です。

(20)日本に着いたもうすぐ1年間。

(21)単位足りないそして一生懸命日本語を勉強しなければなりません。

また、接続のみならず、発音を誤って覚えているために表記が誤るという現象も起きている。(20)の例にある「着いた（きた）」は、発音的には「きた（来た）」、字義では「着いた（ついた）」とすべきだと思う。それは(16)で「来た」となっている点からも推測される。このことは、一種の混

乱が起きているものと考えられる。

3.6 発音

本項目で取り上げる発音には、主に、促音、濁音の誤用である。このことから日頃から音声教育に力を入れなければならないことがいえる。(23)は、中途半端な形で文が終わっている。これは、本来直後に次に料理の動作がすぐに続くことからこのような表現となっている。しかしながら、ここでは「。」ではなく「、」にしてその後文を続ける方がいい。

(22)日本人はにんにくとか、なとうとかが好きだ。

(23)次の油を入りで、お肉入れで、炒めって。

(24)2つ目は、一生懸命にバイトをしてお金がいっぱいためって、どこかへ旅行に行きたい。

(25)日本のいろんなところを旅行して日本をよく分かる人になりたいです。

(26)まず、ピマンと豚肉洗った。

(27)ときとき思ったとおりにならない、できないこともよくあった。

3.7 列举

列举とは、ある動作を順番順に並べる表現のことをさす。箇条書きを表現にしたような用法である。

(28)二つは日本語をよく勉強したいと思います。

(29)最後、日本の風物はとても有名です。

以上の2例のうち、(28)はもしかしたら誤りとは言えないかもしれない。「1つは～、2つは…」と言わないことはないが、「1つ目は～、2つ目は…」と言ったほうが座りがよいような気がするの、個人差なのであろうか。(29)は「最後に」とした方がいいように思う。中国語では“第一”“其次”“最后”のように、そのままに言い切るが、日本語では「最初に」「次に」「最後に」等、時を示す「に」を付加することを指導していく必要性を感じる。

3.8 語彙

(30)日本人の生活水平は相対的な高さです。

(31)日本語のレベルがちょっと進んだ。しかし2級水平まだ到達です。

(32)目標は日本語の水平がよくなりしたいと思います。

以上の3例はいずれも「水平」が使われている。日本語では、「水平」は、

<水平>

- ①水面のように平らなこと・さま。重力に対して直角の方向。
- ②上がり下がりのないこと・さま。普通。並。 『講談社カラー版日本語大辞典』(1995)

とあるように、ここでは文脈にそぐわない。ここでの「水平」は中国語の語彙をそのまま当てはめたものだと考えられる。日本語にする場合、「(到達した)水準、レベル」とするべきだろう。中国語にはこのほか、①水平、②水準器、という意味もあるが、ここでは文意に合わない。

(33)学校の窓口から山と電車と福知山城と橋と河が見えます。

この例は、「窓口」の中国語“窗口”の指し示すものと、日本語の「窓口」の指し示すものについて考えることができる。中国語“窗口”は、①窓辺、②窓口、カウンター、を指し示すのに対し、日本語の窓口は、①窓になったところ、②窓を通して応対、金の出し入れなどの事務をとるところ・人、③外部と折衝する部局・人など、となっている。中国語の①、日本語の①の意味として使えば誤用とはいえないが、日頃は使わない。また、中国語では“窗”という単語もある。こちらは、日本語の「窓」に対応する。

(34)私はぜひ日本語を頑張ります。まずまず日本の文化を了解します。

(35)両親の苦勞が了解しました。

(36)毎日いろいろなことをしたので、日本の社会についてもっと了解すると思っている。

(37)日本の古い文化を了解しました。

(34)~(37)以外にも「了解」を使った例はいくつかあった。これらは中国語の“了解”をそのまま当てはめたものと思われる。中国語の“了解”は、「了解する、理解する、わかる、知る」と幅広い。翻って日本語の「了解(する)」は、「よく分かること。また、納得して承知すること」(『講談社カラー版日本語大辞典』(1995))と出ている。この「よく分かること」=理解する、と解釈し、「理解しました」という意味で「了解しました」をそのまま使っている可能性がある。また、(35)の場合、「~が分かりました」は言えるが「~が了解しました(~が理解しました)」はいえない点も注意しておきたい。

(38)いまもう習慣となります。

(39)食べ物についてももう習慣しました。

(38)(39)の例だけ見ると、(38)は文として成立し、(39)は成立しないように見える。もともと「習慣になりました」の方がいいのだが。しかし、いずれの例も中国語の“习惯(了)”の意味だといえる。つまり、中国語では、①習慣、習わし、しきたり、②習慣となる、～に慣れる、適応する、と名詞としても用法と動詞としての用法がある。日本語に直すなら「慣れました」にしなければならない。日本語にも、中国語にも「慣」の字が含まれているため余計に気づきにくい例なのかもしれない。

ここからは例文のあとの()内に日本語の意味を付す。これらの例は、日本語の語彙が分からずに、または日本語と中国語の語彙が共通と思い、そのまま書き記したものと思われる。

- (40)私は日本の家は1天で住んでいた。(1日)
- (41)想像中の日本と不同で、この福知山という町は小さくて、静かな町です。(違い、異なり)
- (42)本回家でいつも母と一緒にスガへ行きました。(本=今回、回家=家に戻る：→今回の帰省)
- (43)上回和服を着たの人たくさんいます。(前回、この前)
- (44)刺身や寿司や焼肉など平常のを食べています。(普通の、一般的なもの)
- (45)機会があれば一定とに行きます。(必ず)

以下の例は動詞の中でも自他対応に問題があるものである。

- (46)日本のインターネットも発達だ。(発達してる)

中国語では“发达(発達)”は、①発達する、盛んである、②発達させる、盛んにさせる、と両方の意味がある。たとえば、

- (47)这里工商业都十分发达。(ここは商工業とも非常に発達している)
- (48)发达经济。(経済を発達させる)

次に見るのは、時間を表す例である。

- (49)将年国帰りたいです。(将来)
- (50)未来、中国へ帰ったあとで必参考にします。(将来)

次の例は、似ているが、微妙に異なるものである。

- (51)ただ旅游した。京都と奈良へ行きました。(観光、旅行)

(52)2006年、私にとって、人生の転折点になる年であるかもしれない。(転換点)

(53)今年の春暇は中国へ帰る事ができませんと思いますからたくさんアルバイトをして
銭をもって暑暇の時に北京へ帰ります。(春休み)(夏休み)

以下の例は、日本語でも分かるが、やや大げさ、つまり個人のことで使わないであろう例である。

(54)過した年の失敗のことを改正し、成功のことをつづける時です。(直し、改め、)

(55)そして、美しいことを思い出されり、未来の目標を制定する時です。(定める)

(56)今年頭にあたり、その目標を継承するつもりだ。(そのまま続ける)

(54)の場合、中国語では「(過ちを)正す、是正(する)、改正(する)」という意味を持つ。日本語の場合、「改めて正しくすること」であるが、「規約の改正、地租改正」など個人的なことよりも法的や文書を伴ったものを改めるものに使う傾向があるように思う。そのことは(55)の制定にも当てはまる。また、(56)についてだが、「うけつぐこと。先代・前任者のあとを継ぐこと」を意味する場合が多いので、ここでは不的確といえる。

次の例は、日本語と中国語で単語は同じだが表記が異なる(簡体字表記の)例である。

(57)材料として日本の牛肉は出産地によって价格が違います。(価格)

(58)その上来日1年間ぐらいので家族と電話で联络するだけ。(連絡)

(59)でもそう言うの愿望はかみさまにお願いしても実現にできませんと思います。(願望)

これらの例は、以上の範疇に入っていない、ニュアンスの違いの例といえる。

(60)日本は、性文化が開方していますが、韓国は閉めています。(開放的だ、閉鎖的です)

(61)問題するとき、まるで現場のように、時間を決めて自分の答え〜。(その場にいるように)

(61)の例は「現場」という言葉の持っている広さを表しているようにも思える。日本語の場合、①物事が現在行われている、または実際に行われた、その場所。②実際に作業をしている場所。③めのまえ。まのあたり。実地。④直取引 とある。④は除外して、①～③についていえるのは、まさにその場所、というニュアンスである。中国語の“现场”の場合も、「現場、現地」という意味で、そういう点では日本語と似通っている。例えば、「现场直播」は「現場」から「直」に「放送すること、すなわち「生中継する」ことを意味する。また事故現場、犯罪現場の用例など日中に共通している。しかしながら、(61)のように「現場のように」あるいは「現場にいるかのように」と訳しても何かしっくりこない気がする。「現場」と「その場」では知的意味は同じだと思うが、ニュアンスが異なる例といえる。同様のことが(61)にもあてはまる。「開方」(正しくは「開放」と「開放的」、「閉

めている」と「閉鎖的」はほぼ同義だが、ニュアンスが異なるのではないか。

4. まとめ

今回、留学生の誤用を見てきて、いくつか分類を試みたが、1つの文に複数の誤用が見られるものもあった。ここでは、煩雑になるので、1つの分類にのみ入れることにしたが、より厳密な日中比較（日韓比較）をするためには、詳細に検討する必要があるといえる。学習者の不正確な音、語彙、文法などが誤って定着してしまう、化石化が起こる前には是正すること。化石化しないようにすることこそ、教員の役割の一つだと思う。また、今回は実現していないが、留学生に文章を書かせる際に、日本語のみならず、学習者の母語の表現も付した方がより正確に、的確にいわんとすることが理解できると思う。ただし、この際留学生の母語に対する正確な知識が要求されることは言うまでもない。今回の調査は、限られた時間内で実施したもので、徹底できなかった箇所も多々あり、残念ではあるが、今後に生かしていきたいと思う。

《参考文献》

- (1) 穂積晃子 (1987)《中国人学日语常见病句分析一百例》科学普及出版社
- (2) 玉川大学応用言語学研究会 (1988)『中間言語入門－誤答分析を超えて』三修社
- (3) 徐宝妹 许慈惠 (1995)《留日学生学日语错句解析》上海外语教育出版社
- (4) 庵・高梨・中西・山田 (2000)『初級を教えるための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- (5) 庵・高梨・中西・山田 (2000)『中上級を教えるための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- (6) 王忻 (2006)《中国日语学习者偏误分析》外语教学与研究出版社

<教科書>

- (7) 人民教育出版社/光村图书出版社《中日交流标准日本語 初級》(1988) 人民教育出版社
 - (8) 人民教育出版社/光村图书出版社《中日交流标准日本語 中級》(1990) 人民教育出版社
- 梅棹・金田一・阪倉・日野原 (1995)『講談社カラー版日本語大辞典』講談社

《注》

- (1) 北原保雄 編 (2004)『問題な日本語』大修館書店 p. 76-77
- (2) 王忻 (2006)でも同様の指摘がある。p. 100